創刊号に寄せて

初代産業応用工学会会長 芹川 聖一

現在、さまざまな分野でいろいろな学会が科学・技術の発展に大きく寄与しています。電気、機械、化学等のそれぞれの専門領域ごとに学会が分かれ、基礎研究から応用研究まで活発に活動しています。しかし、高等教育機関の応用研究と企業の開発・設計・製造の間にはギャップがあり、必ずしも学会で評価されている応用研究が企業ですぐに使えるものではありません。本会の目指す領域は、そのギャップを埋める領域です。本会は、製品化を視野に入れた応用研究からプロトタイプの製作、製品開発までを領域とし、その領域における研究、開発を推進する学会として、2012年に設立されました。

世界の経済情勢に目を向けると、諸外国の発展には目覚ましいものがあります。このような状況の中、日本産業が生き残り、発展するためには、オリジナリティ溢れる先進の製品を常に世界に出し続ける必要があります。そのためには、企業と高等教育機関の連携が重要です。最近では産学連携が盛んに行われていますが、大学と企業ではスピード感が大きく異なります。また、大学は論文偏重主義の傾向にあり、実用化、製品化は論文に付随する二次的価値でしかないという人もいます。これでは、企業と高等教育機関がひとつの目的に向かって真にタッグを組むことはできません。日本産業の生き残り、さらには発展のためには、企業と高等教育機関が同じベクトルを向く必要があります。本会は、両者が融合する領域の研究開発を評価する学会です。当然のことながら論文として新規性は必要ですが、それが産業界や一般生活でどのように役立つのかという『有用性』と今後の『発展性』を高く評価します。また、企業、大学、高専、海外研究者、個人研究者の誰もが本会に参加できるように、個人会員の会費は無料としています。

産声をあげたばかりの学会ですが、多数の人が参加し、本学会誌を通して有用な情報が公表され、産業界の発展に寄与できることを期待します。